

(平成30年8月8日 行政経営課)
中間報告2018(地域特性の活用)、平成29年度第5回会議記録等を基に作成したもの。

5 交通インフラ（鉄道、高速道路等）が充実している

- ・小田急線の駅が4つ
- ・小田急線複々線化、快速急行（新宿まで60分）、ロマンスカー
 - 強み鉄道の交通利便性が高い。
 - 弱み駅前を開発するための資金も4駅分かかる。
- ・東名高速道路（IC）、新東名高速道路（IC、SIC、SA）、秦野厚木道路
 - 強み高速道路の交通利便性が高い。
 - 強み新東名周辺ではこれから産業系の土地利用ができる。
- 6 大学がある
 - ・東海大学
 - ・上智大学短期大学部
 - 強み常に一定数の若者が滞在している。
 - 強み大学や学生との連携の機会に恵まれている。
 - 弱み市民に占める非納税者の割合が高く、税財政基盤が弱い。
- 7 市街地と中山間地域がある
 - ・中山間地域には伝統的コミュニティが多く残る。
 - 特徴に応じた施策が必要
- 8 温泉がある
 - ・駅前に存在し、全国有数のカルシウム濃度を誇る鶴巻温泉
 - 強み市内外から好評であり、今後も集客が期待できる
- 9 労働拠点性が低い
 - ・市外への通勤者が市内勤務を上回る。
 - 強み労働力が市内で活用されず、市外へ流出している。
- 10 財政が厳しい状況にある
 - ・人件費、公債費の削減が相当程度進んでいる。
 - ・人口1人当たりの経常一般財源の額が全国1741市町村で13番目に少ない。
 - 弱み厳しい財政状況である。

1 古くから人々が暮らしていた土地である

- ・遺跡（旧石器時代の遺跡、古墳時代の桜土手古墳群など）
- ・秦氏（渡来系であり、絹布を織つて天皇へ献した一族）
- ・矢倉沢往還
- 秦野市を東西に貫いており、古くから武藏、駿河などへ繋がる物資運搬の「経済の道」、また、江戸時代は富士山、大山などへの参詣のための「信仰・旅の道」であり、人や物が行き交っていた。
- ・秦野たばこ祭
- かつて秦野の基幹産業であったたばこ耕作の農家を慰労するため始まった祭り。市民全體の祭りとなつて現在まで続いている。
 - 強みまちの歴史に根ざした祭りがある。

2 秦野名水がある

- ・秦野盆地湧水群（全国名水百選選定、豊富な地下水）
- ・盆地内の地下水を生かした生活と生産をつなぐ地域循環体系
- ・公水（市民、事業者、行政により地下水が保全されてきた歴史）
 - 強み市民の誇りにつながる地域資源を持つている。
- ・環境省名水百選選抜総選挙において名水部門全国1位
 - 強み日本一おいしい水道水が飲めるまちである。

3 首都圏外縁部に位置している

- ・都心から約50キロメートル
 - 強み弱み都心へのアクセスを（首都圏外縁部ながら）確保している。

4 山並みや里地里山がある

- ・丹沢や渋沢丘陵（秦野盆地）、弘法山
 - 強み広く市民が共有できる地域固有の特徴がある（自然環境、景観）。
 - 強み里地里山がある。